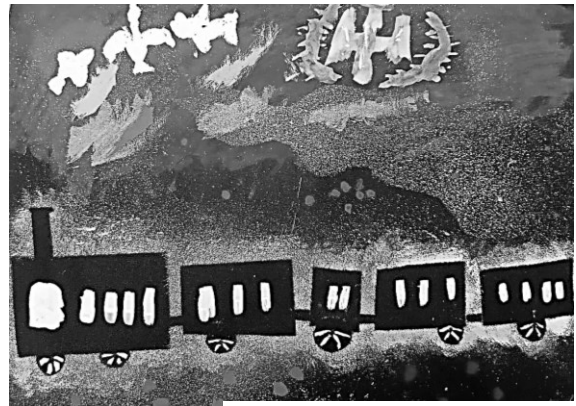


みずのわ

学校だより
【第10号】
令和4年12月23日(金)
石巻市立石巻小学校

【第2学期終業式】

新型コロナウイルス感染症第7波ピーク時にスタートした第2学期でしたが、感染が収まることなく第8波に突入し、本日は「みやぎ医療ひっ迫危機宣言(来月16日まで)」が出されている中での終業式となりました。感染症については、国や県、市から様々な指示や情報が入ってきましたが、それをそのまま鵜呑みにして対処するのではなく、本校や中学校区の実状を踏まえて適切な対応になるよう考えて教育活動を行ってきたつもりです。市中で感染が拡大する中、校内において感染の拡大が見られなかったことは、子供たちが、マスクの着用や手洗いなどの「新しい生活様式」を徹底したことと保護者の皆様の御協力、御理解あつてのことと感謝申し上げます。



銀河鉄道の夜 松川海人 作

【1%の差】

先日、ある研修会で講師を務めた際、こんな質問が来ました。

「先生は、児童相談所に勤務されていたそうですが、そこでは何を学びましたか。」

うーん、大変な現場はたくさんありました。瀕死の幼児を救ったことがありました。包丁を突き付けられたこともありました。首吊りの現場に臨場したときは三日間眠れませんでした。3年間で学校現場では体験できないことをたくさん経験しました。でも、そこで何を学んだのかと問われたとき・・・このように答えました。

父から性的虐待を受けた高校生の聞き取りを心理司と一緒にやったことがありました。最初に私が質問をしました。でも、なかなか返答がありません。(相当ショックだったのだから仕方ないかあ) こう思い返答を待ちました。30秒くらい待ったと思います。でもやはり返答がありません。(私の質問がまずかったかな) こう考えて別の質問をして待ちました。それでも返答はありません。私はまた質問を替えました。これを何回か繰り返しましたが、結局この日は声すら聞くことができませんでした。

そして、面接が終わってから、心理司にこう言われました。

「川田さんは“沈黙”が苦手ですか。」

沈黙が苦手かどうかなど考えたこともないし、自分では質問してから十分待ったつもりでいました。だから逆に聞き返しました。

「〇〇さんは、質問してからどのくらい待てるんですか。」

「5分は普通に待ちます。必要ならば30分でも待ちます。」

短くこう言われて全てを悟りました。(自分は何て自分よがりやで相手の心情に立たな

面接をしてしまったのだろう。“沈黙”もじっくりと考えるために必要な時間だったんだ。それを短い時間で質問を替え、相手の思考を邪魔し、だから質問に答えることができなかったのではないか。私は何て気が短いのだろう。というか、私に限らず5分も待てる教員はいないぞ。忙しすぎてじっくり話を聞く余裕がないのが現実だ。もし、じっくり話を聞くとしたら、他の子を自習にさせなければならない。だからそうならないために、ぱっぱと解決を急ぎ過ぎてしまう。こんなことでは子供から本当の気持ちを引き出すのは無理だよなあ。学校現場に戻ったら何とかしないとな。）

こう思いました。だから、一つは「待つ」ということを学んだのだと思います。もう一つあります。

児童相談所には家庭支援班と判定指導班があり、私の直属の上司が家庭支援班長でした。あるとき、子供を虐待した父に対して班長と私とで面接をしました。はじめ、父は乱暴な言葉を使い激しい口調で騒ぎ立てました。でも、班長が法律のことを含め正論で静かに説諭を続けると、あれほどいきり立っていた父は途中からうつむき、班長の話を黙って聞くようになりました。（すごい。児相の班長ともなればどんな相手でも話を聞くものだなあ。）感心しました。

その後、一通り話を終えた班長が席を立った後、私が父に尋ねました。

「班長の話、よく理解したんですね。」

すると、父は意外にもこう答えたのでした。

「いや、あまりに一方的にしゃべってきて、反論してもどうしようもないと思ったから、早くその場をやり過ごすために話を聞いていたふりをしたんだ。話なんかさっぱり頭に入ってねえ。」

衝撃の一言でした。教員として子供を諭している自分の姿を頭に描いた私にとって、先ほどの班長とこれまでの自分が重なり、雷に打たれたような気持ちになりました。（子供の反論を許さない一方的な話し方をし、子供はその場を何とかしのぎようとしているだけなのに、それを子供が聞いているものと勘違いし、自己満足だけの何の意味もない指導をしていた・・・。）

だから、もう一つの学びは「聴く」ということになります。子供にたくさんしゃべって話のうまい教師が優れた教師なのではなく、必要最低限の語りをし、子供の話を聴き、子と子をつなぐことのできる教師が本物なのだ気付きました。

ところで、犯罪心理学者の出口保行氏が、その著書の中でこう述べています。

「優等生と非行少年の子育ての差は、たった1%である。」

「その1%の差とは、保護者が子供と丁寧に向き合っているかどうかである。」

私は、丁寧に向き合うこと＝待つこと・聴くこと と変換できると思います。

明日からの冬休み、保護者の皆様には、年末年始ということもあり、いつも以上に多忙な日々になるものとは存じますが、どうか、お子さんに丁寧に向き合ってください、よい時間を過ごされますようお願いしております。

それにつけても、長引くコロナ禍の一年を乗り切ることができたのは、保護者の皆様をはじめ、地域の方々の御支援、御協力の賜物と、心から感謝申し上げます。

どうぞ、健やかで、よいお年をお迎えください。

(校長／川田知宏)